

KORG iM1

for iPad

MOBILE MUSIC WORKSTATION

M1



取扱説明書

目次

はじめに 3

おもな特長 3

iM1 の構成 4

COMBI (Combination) モード 4

MULTI モード 5

PROG (Program) モード 6

SETTINGS モード 7

各部の名称と機能 8

ブラウザ機能 13

各モードのパラメーター 16

Combination モード 16

Timbre Parameter 17

PERFORMANCE ページ 19

MIDI ページ 21

MASTER FX ページ 23

EASY ページ 26

OSC ページ 29

VDF ページ 34

VDA ページ 37

CONTROL ページ 39

INSERT FX ページ 42

Multi モード 44

TIMBRES Parameter 45

PERFORMANCE, MIDI ページ 46

MASTER FX ページ 47

EASY, OSC, VDF, VDA, CONTROL, INSERT FX ページ 48

Program モード 50

TIMBRES Parameter 51

EASY, OSC, VDF, VDA, CONTROL, INSERT FX ページ 52

SETTINGS モード 53

データのライト、セーブ、ロード .. 56

内部メモリーへのライト 56

セッション 56

コンビネーション 57

プログラム 57

ドラムキット 58

リネーム 59

おもな仕様 60

サポート・サービスのご案内 61

はじめに

このたびは、KORG iM1 for iPadをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。本製品を末永くご愛用いただくためにも、この取扱説明書をよくお読みになって正しい方法でご使用ください。

おもな特長

独特のサウンド・キャラクターをもつ大ヒット PCM シンセサイザー「コルグ・ミュージック・ワークステーション M1」が新機能を追加し、またシリーズ全音色と新規音色を内蔵してソフトウェア・シンセサイザーとして蘇りました。

2700 を超える膨大なプリセット・サウンド

オリジナルの M1 では、一台で楽曲を完成させることができる幅広い音色パリエーションを内蔵していました。

iM1 for iPad では、内蔵 PCM を拡張した M1EX の全サウンドに加え、全 19 種類のオプション ROM カードの PCM データ、プログラム・データ、コンビネーション・データ、さらに KORG T1 のサウンド・データをすべて内蔵しています。（一部、課金コンテンツを含みます。）

M1 伝統の音色を集めたベスト・プログラム・カードを新規搭載しました。

iM1 for iPad には現代の楽曲制作にマッチしたドラム・サウンドの PCM データとプログラム・データを搭載し、トータル 2700 を超える膨大なプリセット・サウンドを内蔵しています。

使いやすさを追求したユーザー・インターフェイス

iM1 for iPad では評判の高い KORG Legacy Collection - M1 のデザインをさらに改良し、モバイル・シーンに合わせたモダンなユーザー・インターフェイスを搭載しました。プログラム・ブラウザーにはランキング機能を新しく搭載し、世界中で人気のあるプログラムを選択することができます。

選択したサウンドは、EASY ページや PERFORMANCE ページで簡単に好みの音色にエディットが可能です。使いやすく洗練されたユーザー・インターフェイスでサウンドのイメージやアイディアをすぐに形にすることができます。

フレキシブルなサウンド・メイキングを可能にする多数の新機能

iM1 for iPad には、オリジナルの M1 で要望の高かった多数の新機能が搭載されています。フィルターのレゾナンス、VDA モジュレーション、コンプレッサー・エフェクトを追加し、2 系統だったエフェクト部を各ティンバー（トラック）2 系統のインサート・エフェクト+ 2 系統のマスター・エフェクトに改良し、より多彩なサウンドが得られるようになりました。また、Combination モードとは別に、8 トラック・マルチティンバー音源として使用できる Multi モードを追加するなど、随所に使いやすさを追求しています。

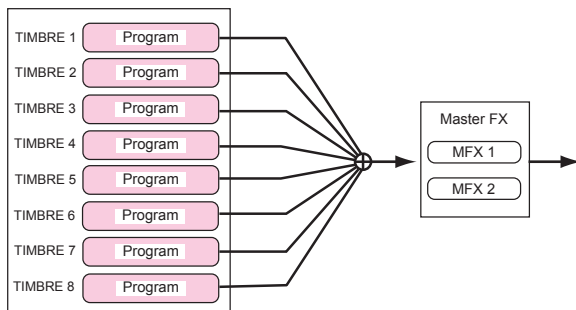
iM1 の構成

iM1 for iPad では、各モードごとに音源のプログラム・データをロードするので、それぞれのモードでプログラムを個別にエディットすることができます。

COMBI (Combination) モード

最大8ティンバー分のプログラムを組み合わせるモードです。

iM1 には、セッションに記録されるユーザー・カード 4 枚と iM1 本体に記録されるライブラリー・カード 2 枚を搭載しています。



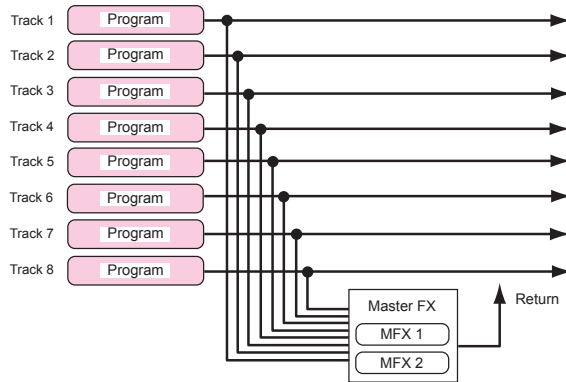
コンビネーションは、以下のパラメーターを含みます。

- ・ 各ティンバーの出力レベル、パン、インサート・エフェクトのオン・オフなどのティンバー調整用パラメーター。
- ・ 各ティンバーの MIDI に関するパラメーター。
- ・ マスター・エフェクトのパラメーター。
- ・ プログラムのパラメーターすべて。

コンビネーションは、32 種類のプリセット・カード+新規コンビネーション (KLC PRESET カード) から選ぶことができます。また、自分でエディット、作成したコンビネーションを 50 個保存できるユーザー・カードを 6 つ (合計 300 個) 内蔵しています。

MULTI モード

8パートのマルチ・ティンバー音源として使用するモードです。



MULTI モードと COMBINATION モードでは、ほぼ同じ構成ですが、以下の点が異なります。

- 各トラックごとに設定されている MIDI チャンネルの初期設定（トラック 1 は 1CH、トラック 2 は 2CH、・・・）。
- MULTI モードでは、マスター・エフェクトをセンド・エフェクトとして使用します。エフェクトの入出力はセンド・レベル、リターン・レベル、リターン先で設定します。センド・レベルを 0 にすると、インサート・エフェクトからの信号がマスター・エフェクトをバイパスして出力されます。センド・レベルを上げると、原音とマスター・エフェクトからの信号をミックスして出力します。

以上の点を除いては、COMBINATION モードと MULTI モードは同じ構成です。COMBINATION モードをマルチティンバー音源として使用したり、MULTI モードをコンビネーションのように使用することもできます。

PROG (Program) モード

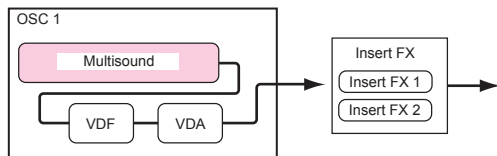
1つのプログラムを演奏、エディットするモードです。

プログラムは、32種類のプリセット・カード+新規プログラム (KLC PRESET カード、iM1 Special カード (100プログラム)) から選ぶことができます。また、自分でエディット、作成したプログラムを50個保存できるユーザー・カードを6つ (合計300個) 内蔵しています。

プログラムには、3種類のオシレーター・モードがあります。

Single

1つのオシレーターを使用します。OSC、VDF、VDA、INSERT FX で構成されています。



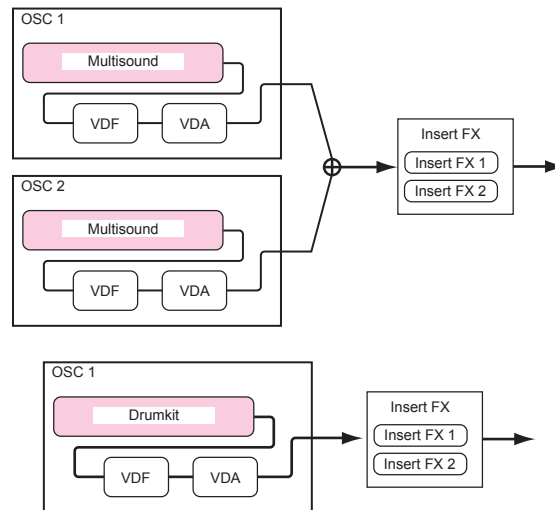
オシレーターに使用するマルチサウンドは、16種類のプリセット・カードから選択できます。

Double

2つのオシレーターを使用します。各オシレーターごとに OSC、VDF、VDA で構成され、オシレーターの出力をまとめてインサート・エフェクトへ入力します。

Drums

オシレーターにドラムキットを使用します。OSC、VDF、VDA、INSERT FX で構成されています。



オリジナルのM1では、ドラムキットはGlobalモードでエディットしていましたが、iM1 for iPadでは、ドラムキットのパラメーターもプログラム内に内蔵しています。

ドラムキットは、21種類のプリセット・カード+新規ドラムキット (KLC PRESET カード) から選択できます。また、自分でエディット、作成したドラムキットを20個保存できるユーザー・カードを4つ (ユーザー・カード2枚+ライブラリー・カード2枚、合計80個) 内蔵しています。

SETTINGS モード

マスター・チューン、トランスポーズ、グローバル MIDI チャンネル、MIDI フィルター、ユーザー・スケール等、iM1 for iPad 全体に関わる設定をするモードです。(→ 53 ページ「SETTINGS モード」)

各部の名称と機能



1.SETTINGS ボタン

→ 53 ページ「SETTINGS モード」

2.INFO ボタン

INFO ボタンを押すと、iM1 for iPad のバージョンを表示します。その他にマニュアルや FAQ のヘルプ情報や最新の情報などが表示されます。

Manual: 取扱説明書を表示します。

FAQ: KORG app Help Center を表示します。

note 取扱説明書、KORG app Help Center を表示するためには、インターネットに接続する必要があります。

3. FILE ボタン

エディットまたは作成したデータのセーブ、ロードを行います。[FILE] ボタンをタップして表示されるメニューからコマンドを選択します。

→ 56 ページ「セッション」

4. Combi/Prog Name

コンビネーションやプログラムの名前が表示されます。

名前をタップすると、コンビネーションやプログラムが切り替わります (→ 13 ページ「ブラウザ機能」)。

5. Mode Select スイッチ

モードを選択します。

COMBI: Combination モードに入ります。

→ 16 ページ「Combination モード」

MULTI: Multi モードに入ります。

→ 44 ページ「Multi モード」

PROG: Program モードに入ります。

→ 50 ページ「Program モード」

6. Page Select スイッチ

各モードでエディット・ページを選択します。選択したページは、エディット・エリアに表示されます。

TIMBERS: TIMBERS ページが表示されます。

→ 17 ページ「Timbre Parameter」

PERFORMANCE: PERFORMANCE ページが表示されます。

→ 19 ページ「PERFORMANCE ページ」

MIDI: MIDI ページが表示されます。

→ 21 ページ「MIDI ページ」

MASTER FX: MASTER FX ページが表示されます。

→ 23 ページ「MASTER FX ページ」

EASY: EASY ページが表示されます。

→ 26 ページ「EASY ページ」

OSC: OSC ページが表示されます。

→ 29 ページ「OSC ページ」

VDF: VDF ページが表示されます。

→ 34 ページ「VDF ページ」

VDA: VDA ページが表示されます。

→ 37 ページ「VDA ページ」

CONTROL: CONTROL ページが表示されます。

→ 39 ページ「CONTROL ページ」

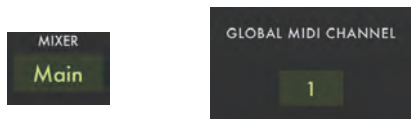
INSERT FX: INSERT FX ページが表示されます。

→ 42 ページ「INSERT FX ページ」

7. エディット・エリア

各エディット・ページで表示されるパラメーターをエディットします。
各コントローラーやパラメーターをタップして、コントローラーやパラメーターを選択し、値を変更することができます。

パラメーター



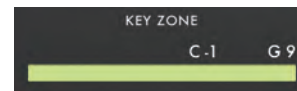
値をタップして選択し、値を変更します。
表示されるポップアップ・メニューから値を選びます。

ノブ



ノブを選択し、上下にドラッグして値を変更します。
ノブをフリックして値を1ずつ変更します。

バリュー・バー、ゾーン・バー



バーを左右にドラッグして値を変更します。

スイッチ



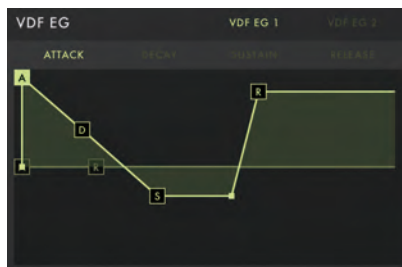
値をタップすると設定が切り替わります。

スライド・スイッチ



位置をタップして設定を変更します。

グラフィカル・エンベロープ



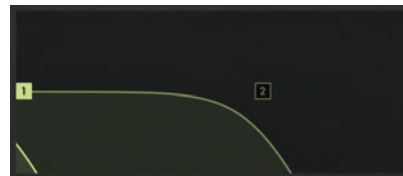
ポイントをドラッグして値を調整します。

Point Select スイッチをタップすると、ポイントが重なった場合に、設定したいポイントを選ぶことができます。

note

オシレーター・モードが DOUBLE のときには、EASY ページの各 EG SELECT で選択されている EG に対して Point Select スイッチ機能が有効になります。

グラフィカル・フィルター



ポイントをドラッグして値を調整します。

8. コントローラー

カオス・パッドまたはキーボードを切り替えます。

キーボード



鍵盤をタップして、ノートを発音します。選択中のトラックの MIDI チャンネルと同じトラックの音が発音します。鍵盤をドラッグするとグリッサンドします。

鍵盤には、12 音階に対応したフルサイズの鍵盤と、スケールの設定に合わせて表示する鍵の数を変更する Gadget 鍵盤を用意しています。

フルサイズ鍵盤時

BEND (ピッチベンド・ホイール) : シンセが発音するピッチをコントロールします。

MG (モジュレーション・ホイール) : 演奏しながら連続的にパラメータの値を変化させることができます。

OCTAVE: 演奏するキーボードの音域を設定します。

CLOSE : フルサイズ鍵盤を閉じ、Gadget 鍵盤に切り替えます。

KAOSS PAD : カオス・パッドに切り替えます。

Gadget 鍵盤時

CHORD: コード演奏を行います。

SCALE: 演奏するスケールを選択します。

OCTAVE: 演奏するキーボードの音域を設定します。

KEYBOARD : フルサイズ鍵盤に切り替えます。

KAOSS PAD : カオス・パッドに切り替えます。

CLOSE : カオス・パッドを閉じ、Gadget 鍵盤に切り替えます。

HOLD : オンにすると左側のパッドでコントロールした状態を指を離しても維持します。

KAOSS PAD L : X 方向と Y 方向にアサインした任意のパラメーターをコントロールします。コントロールするパラメーターは“MODE”で選択します。

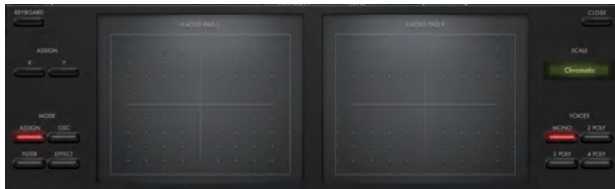
MODE : 左側のパッドでコントロールするパラメーターを選択します。

KAOSS PAD R : X 方向ではノートをコントロールします。X 方向に操作すると、“SCALE”で設定したキーとスケールに従ってピッチが変化します。Y 方向では和音発音時の転回をコントロールします。“VOICES”の設定が MONO のときは無効になります。

SCALE : 右側のパッドを操作して発音するノートのキーとスケールを競ってします。

VOICES : 右側のパッドで発音するノートの発音数を設定します。2POLY ~ 4POLY に設定して和音を発音するときは、Y 軸で和音の転回をコントロールできます。

カオス・パッド



X 方向 (横方向) と Y 方向 (縦方向) に設定されているパラメーターをパッドをドラッグすることで操作します。音を鳴らしたり、パラメーターを変化させることができます。たとえば、右側のカオス・パッドを横にドラッグさせると音程が変化し、縦にドラッグさせると音の長さを変化させて演奏することができます。

KEYBOARD : フルサイズ鍵盤に切り替えます。

ブラウザ機能

iM1 for iPad では、膨大な量の音色から必要なサウンドを素早く探し出せるように、従来のカテゴリだけにとらわれないブラウザ検索機能を内蔵しています。1つの楽器やサウンド・キャラクターから目的の音色を検索したり、複数の楽器やサウンド・キャラクターから目的の音色を検索することができます。

コンビネーション、プログラムの選択

各モードでコンビネーションやプログラムの名前をタップすると、以下のブラウザが表示されます。



1. Select タブ

音色の検索方法や保存、購入、ブラウザの終了を選択します。

CARD: 音色カードで検索します。

SEARCH: 楽器の種類やサウンド・キャラクターで検索します。

RANKING: 人気のプログラムを表示します。

WRITE: 作成したコンビネーションまたはプログラムを保存します。

STORE: 追加のサウンド・コンテンツを購入することができます。

CLOSE: ブラウザを閉じます。

2. SOUND CARD DETAIL

選択しているカードとカードのリストが表示されます。タップして選んだカードの内容がサウンド・リストに表示されます。

3. サウンド・リスト

選択したカードの内容や、検索したコンビネーション、プログラムが表示されます。表示される名前をダブルタップすると、音色が適用されブラウザを閉じます。リスト上の音色をタップして選択しているときに、画面上のキーボードや外部 MIDI デバイスでノート・オンすると、ブラウザ上で選択している音色と、現在選択しているティンバー（トラック）と同じ MIDI チャンネルに設定されているティンバー（トラック）が発音します。[SOLO] ボタンが ON のときは、リスト上で選択している音色だけが発音します。



ブラウザで選択中は、接続している外部 MIDI デバイス等で、音色をエディット（オートメーション、コントロール・チェンジ）することはできません。

4. INSTRUMENTS

楽器の種類を指定します。

5. CHARACTER

サウンド・キャラクターを指定します。WRITE 時はすべての項目が選択可能です。

・どちらか片方しか選択できない項目

- ・ BRIGHT ⇄ DARK
- ・ SPLIT ⇄ LAYER (コンビネーションのみ)
- ・ FAST ⇄ SLOW
- ・ SOLO ⇄ ENSEMBLE (プログラムのみ)
- ・ FAT ⇄ SOFT

・グループ内でいずれか選択可能な項目

グループ 1	グループ 2
・ ACOUSTIC	・ DANCE
・ ELECTRIC	・ POPS/ROCK
・ ETHNIC	・ JAZZ/FUNK
・ SYNTHESIZED	・ ORCHESTRA

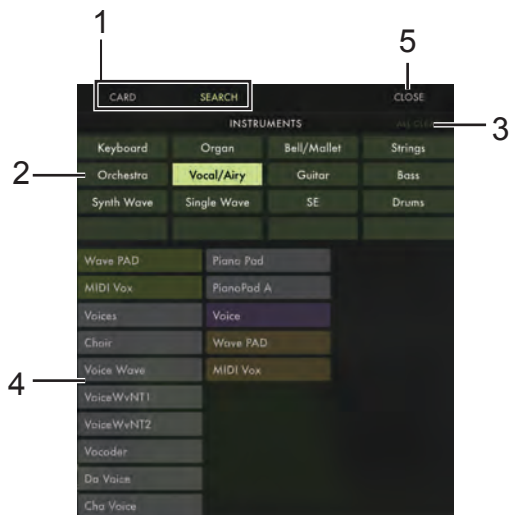
6. ALL CLEAR

指定しているサウンド・キャラクターをクリアします。

マルチサウンド、ドラム・サウンド、ドラムキットの選択

マルチサウンド、ドラムサウンド、ドラムキットもブラウザで検索することができます。EASY、OSC ページ等のエディット・エリアに表示されているサウンド名をタップするとブラウザが表示されます。

マルチサウンド検索時のブラウザ



1. SEARCH/CARD Select タブ

サウンドの検索方法を選択します。

SEARCH: 楽器の種類で検索します。

CARD: 音色カードで検索します。

2. INSTRUMENTS

楽器の種類を指定します。SEARCH/CARD タブを SEARCH にして検索するとき指定できます。複数指定して検索することもできます。→ 14 ページ [4. INSTRUMENTS]

3. ALL CLEAR ボタン

指定している楽器をクリアします。

4. サウンド・リスト

検索したマルチサウンド、ドラムサウンド、ドラムキットが表示されます。表示される名前をダブルタップすると、音色が適用されブラウザを閉じます。

リスト上の音色をタップして選択しているときに、画面上のキーボードや外部 MIDI デバイスでノート・オンすると、マルチサウンド選択画面では、選択中の音色だけが発音します。



ブラウザで選択中は、接続している外部 MIDI デバイス等で、音色をエディット（オートメーション、コントロール・チェンジ）することはできません。

5. CLOSE ボタン

CLOSE ボタンを押すと、選択中の音色を適用せずにブラウザを閉じます。

各モードのパラメーター

Combination モード

最大 8 テンバー分のプログラムを組み合わせて 1 つの音色を作るモードです。COMBI ボタンをタップすると Combination モードに入ります。



Timbre Parameter

各ティンバーで使用するプログラムと各ティンバーの出力レベル、パン、出力先等を設定します。



Timbre Select

.....[1...8]
 ティンバーを選択します。パラメーターの左側に表示されるティンバーのナンバーをタップして選択します。
 画面上のキーボードをタップして発音させたときやピッチベンド・ホイール、モジュレーション・ホイールをドラッグしたときは、ここで選択しているティンバーの MIDI チャンネルで MIDI メッセージを送信します。外部 MIDI デバイスからコントロールするときは、ここで選択しているティンバーの MIDI チャ

ンネルと外部 MIDI デバイスの MIDI チャンネルを一致させないと動作しません。ピッチベンド・ホイール、モジュレーション・ホイールも同様です。

また、ここで選択したティンバーで使用されているプログラムのパラメーターが、[Timbre Select] スイッチによって右側のエディット・エリアに表示され、エディットできます。

TIMBRE ON/OFF

..... [OFF, ON]

ティンバーの発音を有効にするかどうかを切り替えます。

SOLO

..... [OFF, ON]

ON にしたティンバーだけが発音します。

MUTE

..... [OFF, ON]

ON になっているティンバーは発音しません。

IFX

..... [OFF, ON]

インサート・エフェクトのオン、オフを切り替えます。

OFF (消灯) : インサート・エフェクトがバイパスされます。

ON (点灯) : インサート・エフェクトがオンになります。

note プログラムを選択すると、「IFX」は自動的にオンになります。

PROGRAM Select

..... [BROWSER]

表示されているプログラム名をタップして表示されるブラウザでプログラムを選択します。

LEVEL

..... [00...99]
各ティンバーの出力レベルを設定します。

PAN

..... [L50...C...R50]
各ティンバーのパンを設定します。



ティンバーで使用するプログラムのオシレーター・モード (→ 27 ページ「OSC MODE」) が DRUMS のときは、この “PAN” は表示されません。OSC ページの DRUMKIT EDIT セクションでの “PAN” (→ 32 ページ) で各キーごとにパンを設定します。

OUT

..... [-, Main, Sub]
出力先を選択します。

PERFORMANCE ページ

各ティンバーで使用しているプログラム・パラメーターを調整します。PERFORMANCE をタップすると表示されます。



note PERFORMANCE ページのパラメーターを調整しても、プログラム・パラメーターの値の表示は変化しません。プログラムのライト時に調整した値がプログラムのパラメーターに適用されます。

OSC

BALANCE

.....[-50...+00...+50]

オシレーターの音量を調整します。

プログラムの“OSC MODE”がDOUBLEのときは、OSC1とOSC2の音量バランスを調整します。調整した値がOSC1の“OSC LEVEL”に加算され、OSC2の“OSC LEVEL”に減算されます。

VDF

RESONANCE

.....[-50...+00...+50]

VDFのレゾナンスを調整します。調整した値がVDF1、VDF2の“RESONANCE”に加算されます。



OSCページの“RESONANCE Switch”（→27ページ）がOFFになっていると、音色に反映されません。

CUTOFF

.....[-50...+00...+50]

VDFのカットオフ周波数を調整します。調整した値がVDF1、VDF2の“CUTOFF”に加算されます。

VDF EG INT

.....[-50...+00...+50]

VDFの“EG INT”を調整します。調整した値がVDF1、VDF2の“EG INT”に加算されます。

VDF&VDA EG

ATTACK TIME

.....[-50...+00...+50]

VDFとVDAのアタック・タイムを調整します。調整した値が各EGの“Attack Time”に加算されます。

DECAY TIME

.....[-50...+00...+50]

VDFとVDAのディケイ・タイムを調整します。調整した値が各EGの“Decay Time”に加算されます。

RELEASE TIME

.....[-50...+00...+50]

VDFとVDAのリリース・タイムを調整します。調整した値が各EGの“Release Time”に加算されます。

INSERT FX

IFX BALANCE

.....[-50...+00...+50]

インサート・エフェクトのエフェクト音とダイレクト音のバランスを調整します。調整した値が各エフェクトの“DRY/WET”に加算されます。複合エフェクト（Delay/Hall～Delay/Tremolo）が選ばれているときも2つの“DRY/WET”に加算されます。

MIDI ページ

各ティンバーの MIDI チャンネル、MIDI フィルター、キー・ゾーン、ベロシティ・ゾーン、ピッチを設定します。MIDI をタップすると表示されます。



MIDI Ch

MIDI Ch

..... [01...16]

各ティンバーの MIDI チャンネルを設定します。

KEY ZONE

各ティンバーのキー・ゾーンを設定します。

TOP

.....[C-1...G9]

BOTTOM

.....[C-1...G9]

VELOCITY ZONE

各ティンバーのベロシティ・ゾーンを設定します。

TOP

.....[001...127]

BOTTOM

.....[001...127]

MIDI FILTER

PC (Program Change)

.....[OFF, ON]

各ティンバーが MIDI プログラム・チェンジを受信するかどうかを設定します。
受信しない場合はオンにします。

OFF (消灯) : 受信する。

ON (点灯) : 受信しない。

CC (Control Change)

..... [OFF, ON]

各ティンバーが MIDI コントロール・チェンジを受信するかどうかを設定します。
受信しない場合はオンにします。

OFF (消灯) : 受信する。

ON (点灯) : 受信しない。

AT (After Touch)

..... [OFF, ON]

各ティンバーがアフタータッチを受信するかどうかを設定します。受信しない
場合はオンにします。

OFF (消灯) : 受信する。

ON (点灯) : 受信しない。

DMP (Damper)

..... [OFF, ON]

各ティンバーがダンパーを受信するかどうかを設定します。受信しない場合は
オンにします。

OFF (消灯) : 受信する。

ON (点灯) : 受信しない。

DETUNE

DETUNE

.....[-50...+00...+50]

各ティンバーのピッチを 1 セント単位で調整します。

TRANSPOSE

TRANSPOSE

.....[-12...+00...+12]

各ティンバーのピッチを半音単位で調整します。

MASTER FX ページ

コンビネーションで使用するマスター・エフェクトを設定します。[MASTER FX] スイッチをタップすると表示されます。



MASTER FX

ROUTING TYPE

.....[SERIAL, PARALLEL]

エフェクトのルーティングを選択します。

FX 1/FX 2

.....[OFF, ON]

エフェクトのオン、オフ。

PAN ON/OFF

.....[ON, OFF]

パンのオン、オフ。

オフにすると、信号は送られません。

PAN

.....[L50...C00...R50]

IN 3 と IN 4 のパンを設定します。

FX 1/FX 2

EFFECT TYPE

..... [No Effect, Reverb...Delay/Tremolo]

エフェクト・タイプを選択します。

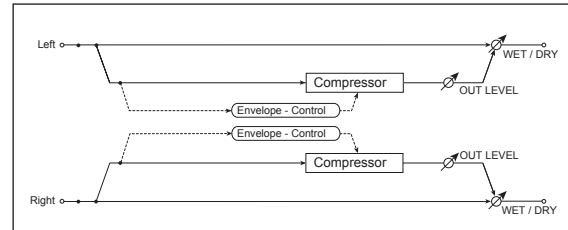
Effect Parameter

“EFFECT TYPE” で選択したエフェクトのパラメーターを設定します。
ここでは、エフェクト・タイプ「Compressor」のパラメーターのみを説明します。その他エフェクトのパラメーターについては、コルグ・ホームページ (www.korg.com) にあるオリジナルの M1 取扱説明書 PDF を参照してください。

→ M1 取扱説明書 PDF 100 ページ [7. エフェクト・パラメーター]

Compressor

入力信号を圧縮して、音のつぶさをそろえてパンチを与えるエフェクトです。ギター、ピアノ、ドラムスなどで使用すると効果的です。



ATTACK

..... [000...500ms]

アタックの強さを調節します。

SENSITIVITY

..... [00...99]

コンプレッサーの感度を調節します。

OUT LEVEL

..... [000...100]

コンプレッサーの出力レベルを調節します。

EQ TRIM

..... [000...100]

イコライザーへの入力レベルを調節します。

PRE LEQ

..... [-15...+00...+15dB]

低域イコライザーのゲインを調節します。

PRE HEQ

..... [-15...+00...+15dB]

高域イコライザーのゲインを調節します。

DRY/WET

..... [DRY, 001...099, WET]

エフェクト音とダイレクト音のバランスを調節します。

MIDI コントロール・チェンジ・メッセージによる Rotary Speaker ロータリー・スピードのコントロール

インサート・エフェクトまたはマスター・エフェクトで Rotary Speaker を使用しているとき、MIDI コントロール・チェンジ・メッセージでロータリー・スピードをコントロールすることができます。

マスター・エフェクトでは、外部 MIDI デバイスからグローバル MIDI チャンネル (→ 54 ページ [GLOBAL MIDI CHANNEL]) で CC#76 (Vibrato Rate) の 64 ~ 127 を送信するとロータリー・スピードが Fast に切り替わり、00 ~ 63 を送信すると Slow に切り替わります。

EASY ページ

プログラムの主要なパラメーターをエディットします。EASY をタップすると表示されます。
このページで表示されないパラメーターについては、OSC ～ INSERT FX ページで設定します。



OSC

OSC MODE

..... [SINGLE, DOUBLE, DRUMS]

オシレーター・モードを選択します。

MULTISOUND 1/MULTISOUND 2/DRUM KIT

.....[BROWSER]

マルチサウンド、ドラムキットを選択します。

(→ 13 ページ「ブラウザ機能」)

LEVEL

..... [00...99]

オシレーターの出力レベルを設定します。

VDF

VDF SELECT

VDF1 と VDF2 のどちらを前面に表示するかを設定します。

CUTOFF

..... [00...99]

カットオフ周波数を設定します。グラフィックの各ポイントをドラッグします。

RESONANCE

..... [00...99]

レゾナンスを設定します。グラフィックの各ポイントをドラッグします。

RESONANCE Switch

..... [OFF, ON]

レゾナンスのオン、オフ。

→ 35 ページ「RESONANCE Switch」

EG INT 1

..... [00...99]

VDF EG1 による効果の深さを設定します。

EG INT 2

..... [00...99]

VDF EG2 による効果の深さを設定します。

VDF EG

VDF EG SELECT

VDF EG1 と VDF EG2 のどちらを前面に表示するかを設定します。

VDF EG

VDF EG を設定します。グラフィカル・エンベロープの各ポイントをドラッグします。(→ 11 ページ「グラフィカル・エンベロープ」)

VDA EG

VDA EG SELECT

VDA EG1 と VDA EG2 のどちらを前面に表示するかを設定します。

VDA EG

VDA EG を設定します。グラフィカル・エンベロープの各ポイントをドラッグします。(→ 11 ページ「グラフィカル・エンベロープ」)

INSERT FX

FX1/FX2

..... [OFF, ON]

各インサート・エフェクトのオン、オフを設定します。

FX1/FX2 EFFECT TYPE

..... [No Effect, Reverb...Delay/Tremolo]

各インサート・エフェクトのエフェクト・タイプを選択します。

FX1/FX2 DRY/WET

..... [DRY, 001...099, WET]

エフェクト・レベルを設定します。

note

インサート・エフェクトに Delay/Hall などの複合エフェクトを使用したときに、Delay と Hall のそれぞれの “DRY/WET” が異なる値のときは、ここでは Delay の値が表示されます。

note

インサート・エフェクトに複合エフェクト (Delay/Hall、Delay/Chorus など) を選択した場合、EASY ページの “DRY/WET” をエディットすると、2 つのエフェクトの “DRY/WET” がそれぞれ同じ値に設定されます。

OSC ページ

プログラムのオシレーターを設定します。OSC をタップすると表示されます。



OSC BASIC

→ M1 取扱説明書 PDF 44 ページ [OSC BASIC]

OSC MODE

..... [SINGLE, DOUBLE, DRUMS]

オシレーター・モードを選択します。

ASSIGN

.....[MONO, POLY]

発音するボイス数を設定します。

MONO: モノフォニックで発音。

POLY: ポリフォニックで発音。

HOLD

.....[DISABLE, ENABLE]

DISABLE: VDA の設定に従って発音します。

ENABLE: 鍵盤を離しても発音を続けます。

OSC1

→ M1 取扱説明書 PDF 44 ページ [F0-2: OSC1]

MULTISOUND 1

.....[BROWSER]

マルチサウンドを選択します。

マルチサウンド名をタップして表示されるブラウザ (→ 13 ページ「ブラウザ機能」) で選択します。

OSC LEVEL

..... [00...99]

オシレーターの出力レベルを設定します。

OCTAVE

..... [4', 8', 16']

オシレーターのオクターブを選択します。

PITCH EG

ピッチ EG のエンベロープを設定します。グラフィカル・エンベロープの各ポイントをドラッグします。(→ 11 ページ「グラフィカル・エンベロープ」)

VEL SENS

EG INT

..... [-99...+00...+99]

ベロシティによる EG の効果の深さを設定します。

EG TIME

..... [-99...+00...+99]

ベロシティによる EG の速さを設定します。

OSC2

INTERVAL

..... [-12...+12]

オシレーター 1 に対するオシレーター 2 のピッチを半音単位で設定します。

DETUNE

..... [-50...+50]

オシレーター 1 に対するオシレーター 2 のピッチをセント単位で設定します。

DELAY START

..... [00...99]

ノート・オンからオシレーター 2 が発音するまでの時間を設定します。

その他のパラメーターは OSC1 と同様です。

Drum Parameters

“OSC MODE” が DRUMS のときに表示されます。



DRUMS

DRUM KIT SELECT

.....[BROWSER]

ドラムキットを選択します。

ドラムキット名をタップして表示されるブラウザ (→ 13 ページ「ブラウザ機能」) で選択します。

OSC LEVEL

..... [00...99]

オシレーター出力レベルを設定します。

OCTAVE

..... [4; 8; 16']

オシレーターのオクターブを選択します。

PITCH EG

ピッチ EG のエンベロープを設定します。グラフィカル・エンベロープの各ポイントをドラッグします。(→ 11 ページ「グラフィカル・エンベロープ」)

→ M1 取扱説明書 PDF 46 ページ [F1-1: OSC1 PITCH EG]

VEL SENS

EG INT

.....[-99...+00...+99]

ベロシティによる EG の効果の深さを設定します。

EG TIME

.....[-99...+00...+99]

ベロシティによる EG の速さを設定します。

DRUM KIT EDIT

INDEX KEY

..... [000: C-1...127: G9]

エディットするノートを選択します。

DRUM SOUND

.....[BROWSER]

ドラムサウンドを選択します。

ドラムサウンド名をタップして表示されるブラウザ (→ 13 ページ「ブラウザ機能」) で選択します。

KBD CHASE

..... [OFF, ON]

ON: ノート・オンを受信したキーのインデックス情報を表示します。

IFX BUS

..... [Main, Sub]

インサート・エフェクトへのバスを選択します。

CUTOFF

..... [-99...+00...99]

VDF の CUTOFF に相対的に作用します。

RESONANCE

..... [-99...+00...99]

VDF の RESONANCE に相対的に作用します。

PAN

..... [L50...C00...R50]

各ドラムサウンドのパンを設定します。

INST TUNE

..... [-120...+120]

各ドラムサウンドのピッチを 10 セント単位、±1 オクターブの範囲で設定します。

INST LEVEL

..... [-99...+99]

各ドラムサウンドの音量レベルを設定します。OSC の “OSC LEVEL” に相対的に作用します。

INST DECAY

..... [-99...+99]

各ドラムサウンドのディケイ・タイムを設定します。VDA EG のディケイ・タイムに相対的に作用します。

DRUM GROUP

..... [OFF, 001...127]

設定した番号が一致するインデックスでは、降着優先で発音します。

NOTE ON RECEIVE

..... [DISABLE, ENABLE]

ノート・オンを受信するかしないかを設定します。

DISABLE: 受信しない。

ENABLE: 受信する。

NOTE OFF RECEIVE

..... [DISABLE, ENABLE]

ノート・オフを受信するかしないかを設定します。

DISABLE: 受信しない。

ENABLE: 受信する。

PITCH MG

PITCH MG は、オシレーターのピッチに対してモジュレーションをかけます。

→ M1 取扱説明書 PDF 52 ページ [F6-1: PICH MG]

OSC 1/OSC 2/DRUMS

..... [DISABLE, ENABLE]

モジュレーションをかけるオシレーターを選択します。

WAVEFORM

..... [SIN...RANDOM]

MG (モジュレーション・ジェネレーター) の波形を選択します。

KEY SYNC

.....[DISABLE, ENABLE]

ENABLE: ノート・オンするたびに MG (モジュレーション・ジェネレーター) の位相がリセットされます。

INTENSITY

..... [00...99]

モジュレーションの効果の深さを設定します。

DELAY

..... [00...99]

ノート・オンからモジュレーションがかかるまでの時間を設定します。

TEMPO SYNC

.....[DISABLE, ENABLE]

ENABLE: “BASE NOTE” と組み合わせて MG の周期を設定します。

DISABLE: MG の周波数を調節します。

FREQ/TIMES

.....[00...99/16...1]

“TEMPO SYNC” が ENABLE のときは、“BASE NOTE” と組み合わせて MG の周期を設定します。“TEMPO SYNC” が DISABLE ときは、MG の周波数を調節します。

BASE NOTE

.....[1/1...1/32]

“TEMPO SYNC” ENABLE 時に、同期しているテンポに対して “BASE NOTE” で選んだ音符を “FREQ/TIMES” で設定する “TIMES” の数だけ並べた長さを MG の一周期として設定します。

“TEMPO SYNC” DISABLE 時は、無効になります。

“BASE NOTE” : 1/4 に設定した場合

- “TIMES” : 1 のとき、1 拍で 1 周期。

- “TIMES” : 2 のとき、2 拍で 1 周期。

- “TIMES” : 4 のとき、4 拍で 1 周期。

“BASE NOTE” : 1/16 に設定した場合

- “TIMES” : 1 のとき、1 拍で 4 周期。

- “TIMES” : 2 のとき、1 拍で 2 周期。

- “TIMES” : 4 のとき、1 拍で 1 周期。

VDF ページ

プログラムの VDF を設定します。VDF をタップすると表示されます。



VDF1

CUTOFF

..... [00...99]

カットオフ周波数を設定します。

RESONANCE Switch

..... [OFF, ON]

レゾナンスのオン、オフを切り替えます。

ON と OFF では、CUTOFF の特性が異なります。OFF のときにオリジナルの M1 の CUTOFF 特性になります。

iM1 for iPad では、オリジナルの M1 にはなかった「RESONANCE」を新機能として追加しました。オリジナルの M1 のプリセット・サウンドを完全に再現するために、通常「RESONANCE Switch」は OFF に設定されています。OFF では、オリジナルの M1 のフィルター特性を忠実に再現しています。レゾナンスを有効にする場合には「RESONANCE Switch」を ON にします。

RESONANCE

..... [00...99]

カットオフ周波数周辺の帯域を強調します。

EG INT

..... [00...99]

VDF 1 EG による音色変化の深さを設定します。

→ M1 取扱説明書 PDF 47 ページ [F2-1: VDF1]

VDF 1 EG

VDF1 EG のエンベロープを設定します。グラフィカル・エンベロープの各ポイントをドラッグします。(→ 11 ページ「グラフィカル・エンベロープ」)

→ M1 取扱説明書 PDF 47 ページ [F2-2: VDF1 EG]

VEL SENS

→ M1 取扱説明書 PDF 48 ページ [F2-3: VDF1 VEL SENS]

EG INT

..... [-99...+00...+99]

EG TIME

..... [00...99]

→ 30 ページ [OSC1]

TIME POLARITY A, D, S, R

..... [+ , x, -]

VDF 1 EG の A (Attack Time)、D (Decay Time)、S (Slope Time)、R (Release Time) に対してベロシティを有効にするかどうかを設定します。

KBD TRK

→ M1 取扱説明書 PDF 49 ページ [F2-4: VDF1 KBD TRK]

CUTOFF

..... [-99...+00...+99]

キーボード・トラックによるカットオフ周波数の変化の深さを設定します。

EG TIME

..... [00...99]

キーボード・トラックによる VDF EG の速さを設定します。

TIME POLARITY A, D, S, R

..... [+ , x, -]

VDF 1 EG の A (Attack Time)、D (Decay Time)、S (Slope Time)、R (Release Time) に対してキーボード・トラックを有効にするかどうかを設定します。

CENTER KEY

..... [C-1...G9]

キーボード・トラックの基準になるキー（ノート）を設定します。

VDF MG

VDF MG は、VDF に対してモジュレーションをかけます。パラメーターの内容は、OSC ページの PITCH MG と同様です。

→ 32 ページ [PITCH MG]

VDF 2

VDF1 と同様です。→ 35 ページ [VDF1]

VDA ページ

プログラムの VDA を設定します。VDA をタップすると表示されます。



VDA1

VDA1 EG

VDA1 EG のエンベロープを設定します。グラフィカル・エンベロープの各ポイントをドラッグします。(→ 11 ページ「グラフィカル・エンベロープ」)

→ M1 取扱説明書 PDF 50 ページ [F4-1: VDA1 EG]

VEL SENS

→ M1 取扱説明書 PDF 50 ページ [F4-2: VDA1 VEL SENS]

EG INT

.....[-99...+00...+99]

EG TIME

..... [00...99]

→ 30 ページ [OSC1]

TIME POLARITY A, D, S, R

..... [+ , x, -]

→ 35 ページ [TIME POLARITY A, D, S, R]

KBD TRK

→ M1 取扱説明書 PDF 51 ページ [F4-3: VDA1 KBD TRK]

AMPLITUDE

.....[-99...+00...+99]

キーボード・トラックによる音量変化の深さを設定します。

EG TIME

..... [00...99]

キーボード・トラックによる VDA EG の速さを設定します。

TIME POLARITY A, D, S, R

..... [+ , x, -]

VDA 1 EG の A (Attack Time)、D (Decay Time)、S (Slope Time)、R (Release Time) に対してキーボード・トラックを有効にするかどうかを設定します。

CENTER KEY

.....[C-1...G9]

キーボード・トラックの基準になるキー (ノート) を設定します。

VDA MG

VDA MG は、VDA に対してモジュレーションをかけます。パラメーターの内容は、OSC ページの PITCH MG と同様です。

→ 32 ページ [PITCH MG]

VDA 2

VDA1 と同様です。

CONTROL ページ

アフタータッチと外部コントローラーによる音色やピッチの変化について設定します。CONTROL をタップすると表示されます。



AFTER TOUCH

アフタータッチ対応の MIDI キーボードを使用して演奏する場合のアフタータッチの設定を行います。

→ M1 取扱説明書 PDF 53 ページ [F7-1: AFTER TOUCH]

PITCH

.....[-12...+00...+12]
アフタータッチによる音程の変化量を設定します。

PITCH MG

..... [00...99]
アフタータッチによる PITCH MG の効果の深さを設定します。

CUTOFF VDF

.....[-99...+00...+99]
アフタータッチによるカットオフ周波数の変化を設定します。

VDF MG

..... [00...99]
アフタータッチによる VDF MG の効果の深さを設定します。

VDA AMPLITUDE

.....[-99...+00...+99]
アフタータッチによる VDA の音量変化を設定します。

VDA MG

..... [00...99]
アフタータッチによる VDA MG の効果の深さを設定します。

CONTROLLER

MIDI コントローラーを接続して使用する場合の各設定を行います。

→ M1 取扱説明書 PDF 54 ページ [F7-2: JOY STICK]

PITCH BEND

.....[-12...+00...+12]
外部コントローラーによるピッチ・バンド・レンジを設定します。



SETTINGS モードの“GLOBAL PITCHBEND Switch”の設定によっては、ここでの設定は無効になります(→ 54 ページ [GLOBAL PITCHBEND])。

VDF SWEEP INT

.....[-99...+00...+99]
外部コントローラーによる VDF のカットオフ周波数の変化を設定します。

PITCH MG INT

..... [00...99]
外部コントローラーによる PITCH MG の効果の深さを設定します。

PITCH MG FREQ/PITCH MG TIMES

.....[0...3]
外部コントローラーによる PITCH MG の速さを OSC ページの“FREQ/TIMES”の値に対して倍率で設定します。
OSC ページの“TEMPO SYNC”の設定によって、PITCH MG FREQ と PITCH MG TIMES が切り替わります。

VDF MG INT

..... [00...99]
外部コントローラーによる VDF MG の効果の深さを設定します。

VDF MG FREQ/VDF MG TIMES

.....[0...3]
外部コントローラーによる VDF MG の速さを VDF ページの“FREQ/TIMES”の値に対して倍率で設定します。
VDF ページの“TEMPO SYNC”の設定によって、VDF MG FREQ と VDF MG TIMES が切り替わります。

VDA MG INT

..... [00...99]
外部コントローラーによる VDA MG の効果の深さを設定します。

VDA MG FREQ/VDA MG TIMES

.....[0...3]
外部コントローラーによる VDA MG の速さを VDA ページの “FREQ/
TIMES” の値に対して倍率で設定します。
VDA ページの “TEMPO SYNC” の設定によって、VDA MG FREQ と VDA
MG TIMES が切り替わります。

INSERT FX ページ

プログラムのインサート・エフェクトと、その出力先を設定します。INSERT FX をタップすると表示されます。



INSERT FX

→ M1 取扱説明書 PDF 100 ページ [7. エフェクト・パラメーター]

EFFECT TYPE

..... [No Effect, Reverb...Delay/Tremolo]

エフェクト・タイプを選択します。

FX 1/FX 2

..... [OFF, ON]

インサート・エフェクトのオン、オフ。

PAN ON/OFF

..... [OFF, ON]

パンのオン、オフ。

オフにすると、信号は送られません。



DRUMS モードで PAN をオフにしていると、OSC MODE を変えたときに音が出なくなります。

PAN

..... [L50...C00...R50]

OSC Mode が SINGLE、DOUBLE のときは、A と B のパンを設定します。OSC Mode が DRUMS のときは、C と D のパンを設定します。

MIXER

出力先を選択します。

FX 1/FX 2

Effect Parameter

“EFFECT TYPE” で選択したエフェクトのパラメーターを設定します。

iM1 for iPad で追加になったエフェクトについては、24 ページ「Effect Parameter」を参照してください。

その他のエフェクト・パラメーターについては、コルグ・ホームページ (www.korg.com) に掲載されているオリジナルの M1 取扱説明書 PDF を参照してください。

→ M1 取扱説明書 PDF 100 ページ [7. エフェクト・パラメーター]

MIDI コントロール・チェンジ・メッセージによる Rotary Speaker ロータリー・スピードのコントロール

25 ページ「MIDI コントロール・チェンジ・メッセージによる Rotary Speaker ロータリー・スピードのコントロール」を参照してください。

インサート・エフェクトでは、外部 MIDI デバイスからティンバーの MIDI チャンネル (→ 22 ページ「MIDI Ch」) で CC#76 (Vibrato Rate) の 64 ~ 127 を送信するとロータリー・スピードが Fast に切り替わり、00 ~ 63 を送信すると Slow に切り替わります。

Multi モード

8パートのマルチ・ティンバー音源として使用するモードです。[MULTI]スイッチをタップするとMultiモードに入ります。



TIMBRES Parameter

各トラックで使用するプログラムと各トラックの出力レベル、パン、出力先等を設定します。



Track Select

.....[1...8]

トラックを選択します。パラメーターの両端に表示されるバーやトラック・ナンバーをタップして選択します。

画面上のキーボードをタップして発音させたときやピッチベンド・ホイール、モジュレーション・ホイールをドラッグしたときは、ここで選択しているトラックの MIDI チャンネルで MIDI メッセージを送信します。外部 MIDI デバイスからコントロールするときは、ここで選択しているトラックの MIDI チャンネルと外部 MIDI

デバイスの MIDI チャンネルを一致させないと動作しません。ピッチベンド・ホイール、モジュレーション・ホイールも同様です。

また、ここで選択したトラックで使用されているプログラムのパラメーターが、右側のエディット・エリアに表示され、エディットできます。

PROGRAM Select

.....[BROWSER]

トラックで使用するプログラムを選択します。プログラム名をタップして表示されるブラウザで選択します(→ 13 ページ「ブラウザ機能」)。

MIDI Indicator (トラック・インジケータ)

画面上のキーボード、ピッチベンド・ホイール等の操作や外部 MIDI デバイスからコントロールによって MIDI メッセージを受信すると、対応する MIDI チャンネルに設定されたトラックのナンバーが点灯します。ただし、リアルタイム・メッセージを受信しても点灯しません。

TIMBRE ON/OFF

.....[ON, OFF]

トラックの発音を有効にするかどうかを切り替えます。

SOLO

.....[OFF, ON]

ON にしたトラックだけが発音します。

MUTE

.....[OFF, ON]

ON になっているトラックは発音しません。

IFX

.....[OFF, ON]

インサート・エフェクトのオン、オフを切り替えます。

OFF (消灯)：インサート・エフェクトがバイパスされます。

ON (点灯) : インサート・エフェクトがオンになります。

note プログラムを選択すると、“IFX” (→ 17 ページ [IFX]) は自動的にオンになります。

LEVEL

..... [00...99]

各トラックの出力レベルを設定します。

PAN

.....[L50...C00...R50]

各トラックのパンを設定します。



トラックで使用されるプログラムのオシレーター・モード (→ 27 ページ [OSC MODE]) が DRUMS のときは、この “PAN” は表示されません。OSC ページの DRUMKIT EDIT セクションでの “PAN” (→ p.32) で各キーごとにパンを設定します。

OUT

.....[-, Main, Sub]

出力先を選択します。

PERFORMANCE, MIDI ページ

各パラメーターの内容は、Combination モードと同様です。19 ページ [PERFORMANCE ページ] を参照してください。

MASTER FX ページ

マスター・エフェクトを設定します。[MASTER FX] スイッチをタップすると表示されます。

Multi モードでは、マスター・エフェクトをSEND・エフェクトとして使用するので、エフェクトの入出力はSEND、リターン、リターン先で設定します。



SEND 1

..... [00...99]

マスター・エフェクトの SEND1 に送る音量レベルを設定します。

SEND 2

..... [00...99]

マスター・エフェクトの SEND2 に送る音量レベルを設定します。



トラックで使用されるプログラムのオシレーター・モード (→ 27 ページ [OSC MODE]) が SINGLE または DOUBLE のときは、トラックの出力は SEND1 と SEND2 へ送られます。オシレーター・モードが DRUMS のときは、トラックの出力 OUT AB は SEND1 へ、OUT CD は SEND2 へ送られます。

MASTER FX

ROUTING TYPE

..... [SERIAL, PARALLEL]

エフェクトのルーティングを選択します。

FX 1/FX 2

..... [OFF, ON]

エフェクトのオン、オフ。

LEVEL (RETURN 1/2 LEVEL)

..... [00...99]

マスター・エフェクト出力からアウトブットへのリターン・レベルを設定します。

PAN ON/OFF

..... [OFF, ON]

パンのオン、オフ。

オフにすると、信号は送られません。

PAN

..... [L50...C00...R50]

SEND2 のパンを設定します。

OUT

..... [-, Main, Sub]

出力先を選択します。

FX1/FX2

EFFECT TYPE

..... [No Effect, Reverb...Delay/Tremolo]

エフェクト・タイプを選択します。

Effect Parameter

“EFFECT TYPE” で選択したエフェクトのパラメーターを設定します。

iM1 for iPad で追加になったエフェクトについては、24 ページ [Effect Parameter] を参照してください。

その他のエフェクト・パラメーターについては、Web に掲載されているオリジナルの M1 取扱説明書 PDF を参照してください。

→ M1 取扱説明書 PDF 100 ページ [7. エフェクト・パラメーター]

EASY, OSC, VDF, VDA, CONTROL, INS ERT FX ページ

プログラムの各パラメーターをエディットします。各パラメーターの内容は、Combination モードと同様です。

26 ページ [EASY ページ] を参照してください。

29 ページ [OSC ページ] を参照してください。

34 ページ [VDF ページ] を参照してください。

37 ページ [VDA ページ] を参照してください。

39 ページ「CONTROL ページ」を参照してください。

42 ページ「INSERT FX ページ」を参照してください。

Program モード

1つのプログラムを演奏、エディットするモードです。



TIMBRES Parameter

プログラムの出力レベル、パン、出力先等を設定します。



TIMBRE ON/OFF

..... [OFF, ON]

ティンバーの発音を有効にするかどうかを切り替えます。

PROGRAM Select

.....[BROWSER]

プログラムを選択します。(→ 13 ページ「ブラウザ機能」)

IFX

..... [OFF, ON]

インサート・エフェクトのオン、オフを切り替えます。

OFF (消灯) : インサート・エフェクトがバイパスされます。

ON (点灯) : インサート・エフェクトがオンになります。

note プログラムを選択すると、「IFX」(→ 17 ページ「IFX」)は自動的にオンになります。

LEVEL


..... [00...99]

プログラムの出力レベルを設定します。

PAN

.....[L50...C00...R50]

プログラムのパンを設定します。

 プログラムのオシレーター・モード(→ 27 ページ「OSC MODE」)が DRUMS のときは、ここの「PAN」は表示されません。OSC ページの DRUMKIT EDIT セクションでの「PAN」(→ 32 ページ)で各キーごとにパンを設定します。

OSC,VDF,VDF&VDA EG,INSERT FX

各パラメーターの内容は、Combination モードの「PERFORMANCE ページ」と同様です。

20 ページ「OSC」を参照してください。

20 ページ「VDF」を参照してください。

20 ページ「VDF&VDA EG」を参照してください。

20 ページ「INSERT FX」を参照してください。

EASY,OSC,VDF,VDA,CONTROL,INS ERT FX ページ

プログラムの各パラメーターをエディットします。各パラメーターの内容は、Combination モードと同様です。

26 ページ「EASY ページ」を参照してください。

29 ページ「OSC ページ」を参照してください。

34 ページ「VDF ページ」を参照してください。

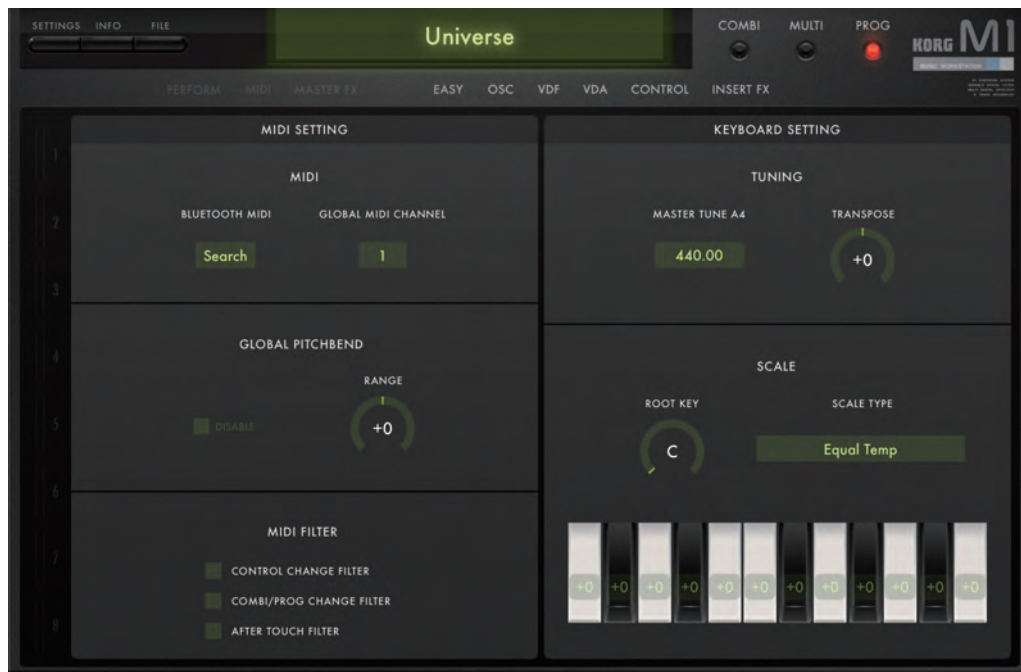
37 ページ「VDA ページ」を参照してください。

39 ページ「CONTROL ページ」を参照してください。

42 ページ「INSERT FX ページ」を参照してください。

SETTINGS モード

マスター・チューン、トランスポーズ、グローバル MIDI チャンネル、MIDI フィルター、ユーザー・スケール等、iM1 for iPad 全体に関わる設定を行うモードです。SETTINGS スイッチをタップすると、SETTINGS モードに入ります。



MIDI SETTING

MIDI

BLUETOOTH MIDI

.....[(Search)]

Search ボタンを押すと、検出可能な Bluetooth MIDI デバイスを検索します。

GLOBAL MIDI CHANNEL

..... [01...16]

グローバル MIDI チャンネルを設定します。

グローバル MIDI チャンネルは、Combination モードでのコンビネーション・チェンジとマスター・エフェクトのコントロール（“EFFECT TYPE” が Rotary Speaker のときのロータリー・スピード→ p.25）、Multi モードでのマスター・エフェクトのコントロール、Program モードでのプログラムが発音する MIDI チャンネルとインサート・エフェクトのコントロール（“EFFECT TYPE” が Rotary Speaker のときのロータリー・スピード→ p.25）に使用されます。

GLOBAL PITCHBEND

GLOBAL PITCHBEND

.....[DISABLE, ENABLE]

DISABLE: 各モードのプログラム・パラメーター CONTROL ページ “PITCHBEND” の設定を優先します。

ENABLE: ここでの “RANGE” の設定が各モードのプログラムに対して有効になります。

RANGE

..... [-12...+12]
ピッチ・バンド・レンジを設定します。“GLOBAL PITCHBEND” が ENABLE のときに、ここでの設定が、各モードのプログラムに対して有効になります。

MIDI FILTER

CONTROL CHANGE FILTER

..... [OFF, ON]
MIDI コントロール・チェンジ・メッセージを受信するかどうかを設定します。

OFF (消灯) : 受信する。

ON (点灯) : 受信しない。

COMBI/PROG CHANGE FILTER

..... [OFF, ON]
コンビネーション・チェンジ、プログラム・チェンジを受信するかどうかを設定します。

OFF (消灯) : 受信する。

ON (点灯) : 受信しない。

AFTER TOUCH FILTER

..... [OFF, ON]

アフタータッチを受信するかどうかを設定します。

OFF (消灯) : 受信する。

ON (点灯) : 受信しない。

KEYBOARD SETTING

TUNNING

MASTER TUNE A4

..... [420.00...460.00 Hz]

発音する全体のピッチを 0.01Hz 単位で設定します。A4 (ラの音) が基準ピッチになります。

TRANPOSE

..... [-24...+24]

発音する全体のピッチを半音単位 (100 セント) で設定します。設定範囲は ±2 オクターブです。

SCALE

ROOT KEY

..... [C...B]

“SCALE TYPE” で選んだ音階の主調和音キーを設定します。

SCALE TYPE

..... [Equal Temp...Pure Minor, User1...User12]

スケール・タイプ (音階) を設定します。12 種類のスケール・タイプから選びます。

Equal Temp: 一般的に広く使われている音律で、各半音のピッチの変化幅が同じになっています (平均律)。

Equal Temp Random Pitch: ノート・オンするたびに平均律に対しランダムにピッチをずらして発音します。

Pure Major: 選択した主調和音のメジャー・コードが完全に調和する音階です (純正律長音階)。

Pure Minor: 選択した主調和音のマイナー・コードが完全に調和する音階です (純正律短音階)。

User1 ~ 12: “USER SCALE” で設定した音階になります。作成した 12 個のユーザー・スケールから選択します。

USER SCALE

..... [-99...+99 cent]

ユーザー・スケールを設定します。“SCALE” で User1 ~ 12 を選び、ここで 1 オクターブ内のピッチを設定します。設定は自動的にセーブされ、“SCALE TYPE” でユーザー・スケールを選ぶことによって、いつでも設定を呼び出すことができます。

1 オクターブ (C ~ B) 内のピッチを -99 ~ +99 セントの範囲で調整します。平均率が基準ピッチ (0) になります。

+99 にすると、基準ピッチよりもほぼ半音高くなります。-99 にすると、基準ピッチよりもほぼ半音低くなります。



“SCALE” が Equal Temp、Equal Temp Random Pitch、Pure Major、Pure Minor のときは “USER SCALE” は設定できません。

AUDIO/OTHER SETTINGS

..... [OPEN]

オーディオレイテンシやノブの操作方法、モバイル通信の有効 / 無効などを設定するページを開きます。

データのライト、セーブ、ロード

内部メモリーへのライト

エディット、新規作成したデータを iM1 for iPad の内部メモリーに記憶することができます。

オリジナルの M1 では、コンビネーションが使用するプログラムと Program モードでのプログラムが同一のデータでした。

iM1 for iPad では、Combination、Multi、Program のモードごとに、エディット・バッファ内にプログラム・データをロードするので、Program モード上でプログラムをエディットしても、Combination モードや Multi モードで使用するプログラムの音色には影響を与えません。

また、エディットした情報はファイルメニューを使用してセッション単位で記録することができます。また、ライブラリー・カードに保存したプログラムはアプリケーション全体で共有することができます。



ライトしたコンビネーションやプログラムは、セーブせずにアプリケーションを終了すると消えてしまいます。ライトしたコンビネーションやプログラムを残しておきたいときは、[FILE] ボタンをタップして保存を実行し、iPad に保存してください。(→「セッション」)

セッション

コンビネーションやプログラムのエディット情報やユーザーカードに保存した情報をまとめて保存します。

セッション・コマンド

[FILE] ボタンをタップして表示されるメニューからコマンドを選択します。
新規：セッションの記憶データをすべてリセットし、ソフトウェアの初期状態に戻ります。

開く：セッションのデータをファイルから読み込みます。

保存：セッションのデータを上書き保存します。

別名で保存：セッションのデータを別名で保存します。

KLC からインポート：KLC M1 互換データを読み込みます。

KLC からエクスポート：KLC M1 互換データを保存します。

M1 からインポート：オリジナルの M1 シリーズで作成したデータをシステム・エクスクルーシブ・ファイルで iM1 for iPad にインポートします。



インポートするデータやエクスポートしたデータは、コンピューター上の iTunes ソフトウェアを経由して iPad に書き込み、読み込みをすることができます。



各データをインポートするときは、USER カードなどが上書きされます。現在のセッションを残しておきたいときは、インポートをする前に「別名で保存」にてバックアップしてください。

ライト時に記憶される設定

- COMBI, MULTI, PROG モードそれぞれの音源パラメーター
- SETTINGS パラメーター
- USER カードに記録したユーザー・プログラム、コンビネーション、ドラムキット

ライト時に記憶されない設定

- LIBRARY カードに記録したユーザー・プログラム、コンビネーション、ドラムキット
- LIBRARY カードに保存したプログラムは自動的に iM1 for iPad 本体に記録され、すべてのセッションで共有することができます。

コンビネーション

作成またはエディットしたコンビネーションを iM1 for iPad 内部のユーザー・カードにライト（記憶）することができます。

iM1 for iPad には、50 個のコンビネーションを記憶することができるユーザー・カードが 6 つ内蔵されています。合計 300 個（ユーザー・カード 4 枚、ライブラリー・カード 2 枚）のコンビネーションを M1 内部に記憶させることができます。

ライト時に記憶される設定

- 各ティンバーで使用されるプログラム。
- 各ティンバーの設定、MIDI ページ設定、マスター・エフェクトの設定。

note PERFORMANCE ページのプログラム調整用パラメーターは、ライト時にプログラムのパラメーターに反映され、値は 00 にリセットされません。

ライト時に記憶されない設定

- Solo/Mute。
- PERFORMANCE ページの TABLE。
- EASY ページの VDF Select、VDF EG Select、VDA EG Select。
- OSC ページ、DRUM KIT EDIT セクションの “KBD CHASE” と PITCH EG セクションの “Point Select”。
- VDF ページ、VDF EG セクションの “Point Select”。
- VDA ページ、VDA EG セクションの “Point Select”。

プログラム

Combination、Multi、Program モードで作成またはエディットしたプログラムを iM1 for iPad 内部のユーザー・カードにライト（記憶）することができます。

iM1 for iPad には、50 個のプログラムを記憶することができるユーザー・カードが 6 つ内蔵されています。合計 300 個のプログラムを M1 内部に記憶させることができます。

ライト時に記憶される設定

- 下記「ライト時に記憶されない設定」以外の OSC ページ、VDF ページ、VDA ページ、CONTROL ページ、INSERTFX ページのパラメーター

note Combination、Multi モードの PERFORMANCE ページ、Program モードの Performance Edit のプログラム調整用パラメーターは、ライト時にプログラムのパラメーターに反映され、値は 00 にリセットされます。

ライト時に記憶されない設定

- VDF Select、VDF EG Select、VDA EG Select。
- OSC ページ、DRUM KIT EDIT セクションの “KBD CHASE” と PITCH EG セクションの “Point Select”。
- VDF ページ、VDF EG セクションの “Point Select”。
- VDA ページ、VDA EG セクションの “Point Select”。

ライトの方法

Combination モード、Multi モード、Program モード

1. WRITE ボタンをタップします。
プログラムに設定されている楽器の種類やサウンド・キャラクターが指定された状態で WRITE PROGRAM ダイアログが表示されます。



note WRITE PROGRAM ダイアログは、各ティンバー（トラック）のメニュー・コマンドで“Write”を選択しても表示できます。

2. ライト先のカードを選びます。
下に表示される [LIBRARY1], [LIBRARY2], [USER1] ~ [USER4] のいずれかをタップします。
3. ライト先のナンバーを選びます。
4. SEARCHの“INSTRUMENTS”で楽器の種類、“CHARACTER”でサウンド・キャラクターを選びます。
楽器の種類とサウンド・キャラクターは、複数の項目を選択できます。(→ 14 ページ [4. INSTRUMENTS]、[5. CHARACTER])

5. 保存するプログラムの名前を入力し決定します。
6. キーボードを閉じます。
ライト先のユーザー・カードにプログラムがライトされます。

ドラムキット

Combination、Multi、Program モードで作成またはエディットしたドラムキットの設定を iM1 for iPad 内部のユーザー・カードにライト（記憶）することができます。

iM1 for iPad には、20 個のドラムキットを記憶することができるユーザー・カードが 4 つ内蔵されています。合計 80 個のドラムキットを M1 内部に記憶させることができます。

ライト時に記憶される設定

KBD CHASE 以外の OSC ページ、DRUM KIT EDIT セクションのパラメーターがライト時に記憶されます。

ライトの方法

1. 各モードのOSCページ、DRUMSセクションのWRITEボタンをタップします。
ドラムキットに設定されているドラムの属性が指定された状態でWRITE DRUM KIT ダイアログが表示されます。



2. ライト先のカードを選びます。
下に表示される [LIBRARY1], [LIBRARY2], [USER1], [USER2] のいずれかをタップします。
3. ドラムキットの属性を選択します。
複数の属性を選択できます。
(→ 14 ページ [4. INSTRUMENTS])
4. 保存するプログラムの名前を入力し決定します。。
5. キーボードを閉じます。
ドラムキットがユーザー・カードにライトされます。

リネーム

ライト時に表示されるキーボードで名前を入力します。

note 名前が入力可能なものは、メモリー・カードにライト可能なコンピネーション、プログラム、ドラムキットです。名前が入力不可能なものは、マルチサウンドとドラムサウンドです。

おもな仕様

iM1 for iPad

- ・ 最大同時発音数：64 音 (iPad のモデルに依存します)
- ・ パート数：8
- ・ PCM 波形：900 種類以上
- ・ 音色数：
プリセット：2700 種類以上
ユーザー・プリセット：440 種類 (ドラムキットを含む)
- ・ エフェクト：34 種類
- ・ リアルタイム MIDI コントロール&オートメーション対応
- ・ 対応サンプリング周波数：44.1kHz

※ 製品の仕様、外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

サポート・サービスのご案内

ご連絡の際に必要な情報

ご連絡の際、以下の情報が必要になります。これらの情報が確認できない場合、サポート・サービスをご提供できませんので、必ずご提示ください。

- お名前
- 製品名とバージョン（iOS の「設定」から確認できます。）
- ご使用のデバイス名
- OS のバージョン
- ご質問内容（できるだけ詳細にお書きください）

ご連絡の前に

- ご連絡の前に、本マニュアルまたは KORG app Help Center にご質問内容に対する回答がないかご確認ください。
- デバイスの基本的な操作方法、一般的な曲や音色の作成方法など、当社製品以外に関するご質問については、お答えできませんのであらかじめご了承ください。

お客様相談窓口

- E メールでのお問い合わせ：techsupport@korg.co.jp
- 電話でのお問い合わせ

 **0570-666-569**
ナビダイヤル®

PHS 等一部の電話ではご利用できません。固定電話または携帯電話からおかけください。

- 受付時間 月曜～金曜 10:00 ～ 17:00（祝祭日、窓口休業日を除く）
- 電話でのお問い合わせの際には、ご質問の製品が操作できる環境をご用意ください。
- ご質問の内容やお客様の使用環境によって生じる問題などについては、回答にお時間をいただく場合があります。あらかじめご了承ください。

KORG INC.

4015-2 Yanokuchi, Inagi-City, Tokyo 206-0812 JAPAN

© 2015 KORG INC.